



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年10月11日 第1088号「週刊五十嵐レポート」

復権する製造業

10月7日付日経新聞、「米国で復権する製造業」というコラム(FINANCIAL TIMES)より。

工業が再び注目を集めている。ITやサービス、テクノロジー関連の企業がもてはやされる一方で工業は忘れ去られていた。だが、今、ポスト新自由主義、脱グローバル化の世界で状況が変化しつつある。これまで人件費の安かった国の賃金が上昇、エネルギーの調達コストも国により大きく変わった。自国により近い場所に製造拠点が移りつつある。サプライチェーン(供給網)の遅延を回避するため国内生産に切り替える動き。

これまで、家族経営を中心とする非公開の米中堅メーカーの底力が見過ごされていた。株式市場から圧力を受けることなく、技術への投資を拡大し、地元の労働者のスキルを向上させることで高い競争力を維持してきた。

非公開であるゆえに、長期的な視野に基づく経営ができる。研究開発や研修など長期的な投資に資金を回すことができる。こうした企業は、ドイツや日本の手法を熟知している。技術者や研究者、労働者、管理職などが緊密に協働する結束力の強いチームをつくることで最良の結果を得ている。

日本にいと、米国企業は、シリコンバレー中心のIT企業やコカ・コーラやマクドナルド等の大企業を連想する。確かに日本と同様に9割が中小企業だが、その情報は日本に入っていない。私はMLB(メジャーリーグ)が好きで、一流プレイヤーのグローブやバットは家族経営の小さな会社が製造しているのを知っていた。一般人向けの道具を作るのではなく、一流プレイヤー向けに欲しがる道具を作る。数は少ないが高価格で売れる。当然手作りになる。米国でもこういう会社があるんだなと思った。

日本の中小製造業には、国内の大企業や中堅企業から供給網の遅延や円安によるコスト増などにより問い合わせがある。低価格なものには応じる必要がないが、特注品や付加価値の高いものであれば、取引の可能性はある。

品質、信頼性、生産性の高さを維持向上していくと日本の製造業もチャンスはある。「隠れたチャンピオン」を目指したい。

ちょっと
気になる出来事

10月10日付朝日新聞、「ゼロゼロ融資 焦げ付き懸念」という記事。

新型コロナウイルス対策として政府が始めた実質無利子・無担保の「ゼロゼロ融資」の受付が9月末で終了。融資実績は42兆円、巨額の公費を投じて企業の資金繰りを支えた。

利払いが来春に向けて企業の返済が順次始まる。コロナの影響が長引き、倒産は増加傾向にある。返済が滞れば、公費負担が増える恐れがある。

帝国データバンク調べによると、新型コロナ関連融資について「借りていない」企業は45.8%、「現在借りている」企業は49.2%。規模別で見ると、小規模企業は57.7%。

いわゆる小さな会社の6割は利用していることになる。新型コロナ関連融資はタイムリーで企業存続支援の意義はあった。堅実経営の企業でも救われた。賢いところは、コロナ関連融資に既存の借金を借り換えて、無利子・無担保にしたところもある。

借りたものは返さなければならないので、ここで生き残る者と淘汰される者に分かれる。実業は常にその連続。



一口メモ
知識

天に応じて時に行く

天に応じて時に行く。ここをもって元(おお)いに亨(とお)るなり。

「天に応じて時に行く」とは、その時々ピッタリの、時的的を射る行いをする事。

農作業でいえば、春に種を蒔き、夏に草刈りをし、秋に収穫して、冬に土壌を養うのが時的的を射るということ。

天の運行に応じて、その時々にしかるべきことを行っていれば、物事は多いに通じていくということである。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

榊五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL.03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

